

令和6年度

市民参画協働政策研究会（協働ワーキング）報告書

1 構成員

委員：拜郷委員、森委員、河野委員、辻委員、高橋委員、藤井委員、今北委員、
田中委員、水谷委員、児玉委員、江藤委員

事務局：自治・共助振興室

2 はじめに

市民参画協働政策研究会（協働ワーキング）は、平成21年4月に市民と行政との協働によるまちづくりを考え、「長岡京市オリジナルの協働の形」を探るために立ち上げられ、16年目となる。

今日、少子高齢化は急速に進行し、地域を取り巻く環境や人々の価値観も大きく変化している。市民のニーズも多様化し、行政のみならず多様な主体が互いの役割を補完し合い、協働してまちづくりを担う必要が強まっている。一方、なぜ「協働のまちづくり」が必要なのかということや、「協働のまちづくり」を行うためには何が必要なのかということが市民も行政も十分には把握できていないのが現状であり、課題となっている。

そこで、協働ワーキングでは、平成23年3月に協働のまちづくりの意義や具体的な手法及び道筋をわかりやすく示した「市民協働マニュアル（初版）」を作成し、平成24年度には「市民協働マニュアル【はじめの一步編】」を発行した。平成25年度は市職員の協働意識の向上を目的とし、職員アンケートや職員基礎研修、協働事例紹介の取組を実施し、平成26年度以降も継続した取組を行っている。

3 活動実績

令和6年度の協働ワーキングでは、市職員の協働意識の向上に向け、入庁1、2年目の市職員を対象とした市民参画協働研修の運営や市職員向けファシリテーション講座、NPOゲーム研修の企画などを行った。また、京田辺市のワーキング受講メンバー開催の合同ワークショップに参加しファシリテーションを学びながら交流を行った。

- ① 市民参画協働研修の運営
- ② ファシリテーション講座、NPOゲーム研修を企画・運営
- ③ 京田辺市との合同ワークショップに参加
- ④ 協働ニュースの発行

協働ワーキングは2回の会議・打ち合わせを実施。

日時	内容
令和6年7月8日(月) 13:30~15:30	第1回市民参画協働政策研究会(協働ワーキング) ・令和6年度協働ワーキングの取り組み内容について ・助け合いとつながり推進月間における「協働」「まち活」マインドの周知方法について
令和6年8月27日(火) 13:30~15:30	第2回市民参画協働政策研究会(協働ワーキング) ・京田辺市との合同ワークショップについて ・庁内向けファシリテーション講座、NPOゲーム研修について
令和6年9月12日(木)	協働ニュース No.45の発行(庁内インフォメーション)
令和6年11月18日(月) 18:30~20:30	ファシリテーション講座
令和6年11月22日(金) 15:00~17:00	京田辺市との合同ワークショップ
令和6年11月25日(月) 18:30~20:30	NPOゲーム研修

令和7年1月7日（火）	協働ニュース No.46の発行（庁内インフォメーション）
令和7年2月27日（木） 9：30～12：00	入庁1、2年目職員向け市民参画協働研修会の実施 講師：NPO法人テダス 高橋 博樹氏 ・ 営利と非営利について ・ 協働について ・ わくわく会議について

4 成果

① 市民参画協働研修の運営

市民参画協働研修は、入庁1、2年目の市職員を対象に実施し、36名の参加があった。協働ワーキングメンバーは研修の運営とワークショップ時のファシリテーターを行った。「営利と非営利について」、「協働について」、「わくわく会議について」の講義を受け、その後ワークショップを行った。ワークショップでは、「春のイベント」というテーマで思いつくものを書き出し、くじでランダムに選ばれたターゲットを喜ばせるにはどんなイベントが良いかをグループで考え発表を行った。参加者が全員ファシリテーションを意識し、楽しい会議を作ることを目標に、それぞれが講義の内容を意識してワークショップに臨んだ。

② ファシリテーション講座を企画・運営

①の講師を長年務めていただいているNPO法人テダス 高橋博樹氏の提案で、市職員を対象に平日夜間にワーキンググループ主催で実施。9名の参加があった。前半は「良い会議とはどんなものか」「ファシリテーションに必要なこと」についての手法を学ぶ講義。後半は講義で学んだことを活かして数人のグループに分かれワークショップを行い、ファシリテーションを実践。「否定するのではなく、より良いものを見つけていく」という心構えを全員が意識し、会議に対して前向きなマインドが醸成された。

③ NPOゲーム研修を企画・運営

NPO法人テダスの高橋博樹氏の提案で、市職員を対象に平日夜間にワーキ

ンググループ主催で実施。11名の参加があった。すごろく形式のボードゲームであり、NPO法人テダスのメンバーが10年間で経験した実話をもとにマスが作られている。参加者はゲームを通してNPOが成長する過程を学んだ。市民活動団体だけでなく、業務に関わる職員にとっても、体験を通して相互理解を深める有効なツールであることがわかった。今後は、市民活動サポートセンターにおいて、団体向けにNPOゲームの体験会の実施を検討する。

④ 京田辺市との合同ワークショップに参加

NPO法人テダスの高橋博樹氏が京田辺市で行っているファシリテーション講座を受講しているメンバーが企画する合同ワークショップに参加。長岡京市からは協働ワーキングメンバーが4名、京田辺市からは8名の参加があった。ワークショップでは、「自分の職場のポジティブ・ネガティブなイメージの仕事」をそれぞれ書き出し、グループごとに「ネガティブをポジティブに変えるには」というテーマについて解決法を考えた。これにより、互いの市の取り組みを知ることで自らの市では気づきにくい視点を得ることができ、業務改善や新たな取り組みへのヒントを得ることができた。この合同ワークショップは、両市の連携を深める貴重な機会となり、その後①の研修に京田辺市メンバーがファシリテーターとして参加するなど、具体的な連携の動きも生まれている。今後も、このような積極的な交流を促進し、両市の発展に繋がるような関係性を築く。

⑤ 市民参画協働ニュースの発行

協働ニュースでは、ファシリテーション講座・NPOゲーム研修・京田辺市との合同ワークショップについての報告や、助け合いとつながり推進月間で実施した協働クイズの記述問題の回答、課内会議を勧める記事などを掲載した。

5 おわりに

入庁1、2年目職員を対象に実施した市民参画協働研修の参加者アンケートでは、「営利・非営利の違いや協働を考える良い機会になった」「良い会議を作るための手法を知ることができてよかった」という声が多かった。今年度は、市職員に向けた

ファシリテーション講座やNPOゲーム研修により効果的な会議の手法や市民と協働する際の知識の習得を図った。また、助け合いとつながり推進月間において、市の考える「協働」と「まち活」マインドの周知方法について、企画・検討を行い市民への啓発につなげた。

現状では「協働」「まち活」「営利・非営利」の理解度や捉え方が市民や市職員の中で必ずしも一致していない状況が見受けられることが課題である。この現状を踏まえ、協働ワーキングでは、市民と市職員双方への効果的な意識啓蒙活動を考え、共通認識の醸成を図るために活動を行う。

また、市民活動サポートセンターの市直営化に伴い、市職員との連携強化が見込めるため、これを機に市民活動サポートセンターと協働ワーキングが連携し、市民活動団体と市職員をつなぐパイプ役となるよう、協働の促進に取り組む。

引き続き協働のまちづくりの推進と実態の研究を行う中で、対等な協働とそれが可能な組織づくりを模索していきたい。